

KIBOKO

木這子 Bulletin of the Tohoku University Library Vol.38, No.3

エントランスホールミニ展示 ☆ えとせとら ☆ //



学生会漫画研究会「水無月展」



日本宇宙少年団
「仙台たなばた分団10周年記念展」



サイエンス・エンジェル「東北大学女子学生
入学100周年記念展」



学生会応援団「50周年記念展」



図書館「江戸の天文暦学展」



図書館「マルクス原著ユネスコ世界
記憶遺産登録記念展」

＊ 初 秋 号 ＊

Contents

TOPICS

- 附属図書館本館は改修工事中です
出入口map、資料閲覧map

EVENTS

- オープンキャンパス2013
7.30. TUE ~ 7.31. WED

TOPICS

- 江戸の天文暦学展と記念講演会を開催
- ワークショップ「引用索引データベースの活用方法と研究評価の最前線」を開催
- グローバル30 サマープログラムの参加者が
見学に訪れました

SERIES

- 「ゆかりの人々」
文学研究科 芳賀京子 准教授
- <つながり>の一冊
『グロタンディークー 数学を超えて』

Information

- 学生選書企画『Student Book Harvest
2013』を実施します!
- 全学教育科目「『レポート力』アップのための情報探
索入門」開講(2セメ・木曜日・5時限目・川内北講義棟
A106教室/マルチメディア教育研究棟M104)

Editor's notes

附属図書館本館1号館は改修工事中です。

附属図書館本館1号館は、1973年に竣工し築40年を経て、建物のもとより、電気や機械設備等も老朽化が目立ちはじめ、また収容能力も限界を超え、資料が書架に入らない状況が続いておりました。

そこで、本館1号館フロアの全面的な改修工事と地下書庫の収容能力拡充工事を行います。改修工事は、最速で来年3月末が完了予定です。(進捗状況によっては延びることもあります。)

工事期間中は、下記の臨時体制で開館をしています。開館範囲、開館時間、サービスは以下のとおりです。(出入口や開館時間等が変更になっていますのでご注意ください。)

臨時開館体制

◆開館時間◆

- 1号館 平日 9:00 ~ 17:00 自由閲覧室のみ開館しています。
(出入口：正面玄関右手側)
- 2号館 平日 8:00 ~ 22:00 1階～3階は通常開館しています。
土・日・祝日 10:00 ~ 22:00 1階～3階は通常開館しています。
(出入口：2号館南側 文学部・文学研究科棟側)

◆資料の配置◆

- 2号館1階 新聞・経済統計書等
- 2号館2階 学生用一般図書等
- 2号館3階 辞書・事典・文庫・新書等
- 2号館4階 古典資料等(許可された方のみ立ち入り可能です)

◆カウンターサービス◆

- 貸出・返却・文献複写・レファレンス等は、2号館で通常通り行っています。

◆その他◆

- 外部倉庫に預けた資料(地下書庫の新分類図書や製本雑誌等)の利用について
他の図書館から現物借用やコピーの取寄せサービスを行います。図書館2号館カウンターあるいはMyLibraryからお申し込みください。**外部倉庫に保管中、他の図書館からの取寄せに掛かる費用は無料とします。**
- 1号館地下書庫北側の資料(個人文庫、旧片平、旧教養部図書等)の利用について
ご希望の図書を職員が出納します。2号館カウンターでお申し込みください。



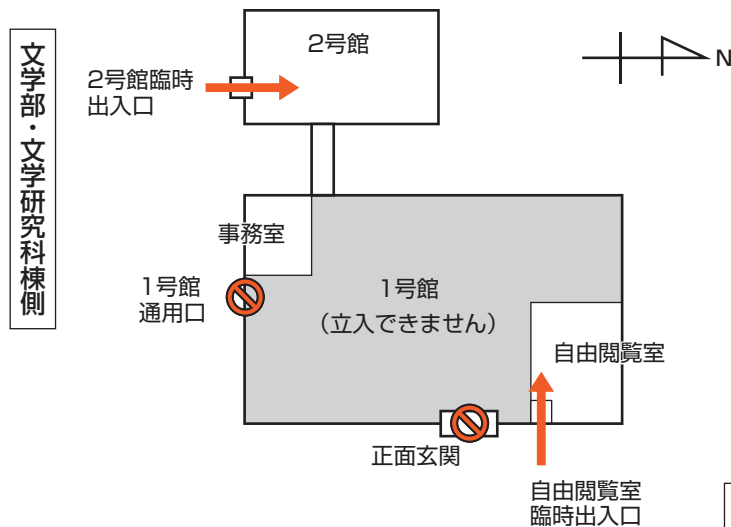
工事に関する詳細、お問い合わせについては、附属図書館WEBサイトをご覧ください。

<http://www.library.tohoku.ac.jp/main/libkaishu2013/libkaishu.html> (工事関連サイトURL)

もしくは附属図書館HPのここをクリック



出入口 map



資料閲覧 map



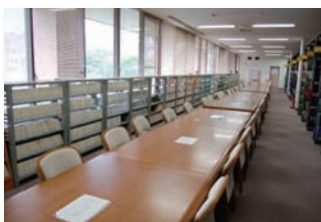
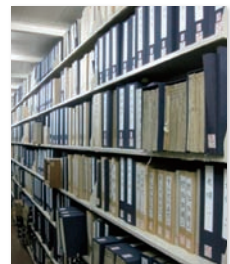
4F

2号館

・古典資料等

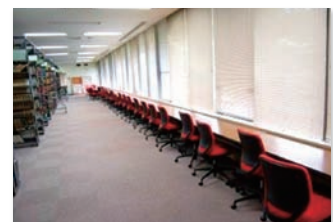
許可された方のみ立ち入り可能
 本学教員、大学院生、「書庫ガイダンス」を受講した学部学生

その他の方には職員が資料を出納しますので、「図書閲覧票」をカウンターに提出してください。



3F

- ・辞書・事典
- ・文庫、新書
- ・和雑誌 (R ~ Z)、洋雑誌 (C ~ J)



2F

- ・学生用一般図書 (学生閲覧室の図書)
- ・留学生用図書
- ・震災ライブラリー
- ・Readers



1F

- ・カウンターサービス
 - ・貸出・返却、レファレンス、相互利用 (文献取り寄せ)、古典資料の出納
 - ・[平日17時まで]
 - 書庫 (旧教養部図書・個人文庫等) の出納
- ・新聞 (当日分含む)、経済統計、新着雑誌、国際資料





オープンキャンパス 2013 7.30. TUE ~ 7.31. WED

本館

当日は、あいにくの曇り空でしたが、本館では2日間で延べ8,000名を超える来館者がありました。

例年の企画である図書館オリエンテーリングや書庫見学ツアーのほか、「留学生（普段、図書館の使い方などを館内で案内している留学生コンシェルジュの方々と）話してみよう!」、「学友会体育部ポスターセッション」、サイエンスエンジェルの展示など、新たな企画も実施しました。

来館した高校生たちは、大学図書館の規模の大きさに驚いていました。ずらりと並ぶ図書・雑誌や、館内で学ぶ大学生を見て、将来の大学生生活を想像していただけたことと思います。



▶書庫ツアーでの資料見学



▶留学生と話してみよう!



▶学友会体育部ポスターセッション



▶サイエンスエンジェル展示

医学分館

医学分館では、医学分館所蔵『解体新書』の展示を行いました。2日間で延べ1,163名の来館者があり、『解体新書』や、大学の教科書を熱心に見学していました。



▶『解体新書』の展示



▶医学部の教科書展示



北青葉山分館

北青葉山分館では、今年度本学で実施する女子学生入学百周年記念事業に合わせ、エントランスホールで関連展示を行い、大正2年(1913)に入学した3名の女子学生から始まる歴史や関係資料を紹介しました。一方、パソコンコーナーでは電子ジャーナルの閲覧体験も行い、今回は約100年前の図書と最新の学術雑誌の両方に触れていただく機会を設けました。

各学部・研究施設の見学の合間に休憩スペースとして立ち寄った方も多く、前年度を上回る約1,500名が来館しました。



▶エントランスホールの様子



▶電子ジャーナル閲覧体験



▶館内見学

工学分館



工学分館では、オープンキャンパス期間中、「学問の実践～サークル・部活動への応用～」と題した展示を行い、工学系サークル（部活）の「Windnauts（学友会体育部人力飛行部）」、「都市・まちづくり研究会」の2団体の活動をパネルなどで紹介し、約600名の来館者がありました。

「Windnauts」は、鳥人間コンテストで複数回の優勝経験を持つ団体です。パネルでの活動紹介以外に、過去の機体の一部や自作パーツなどの展示も行いました。

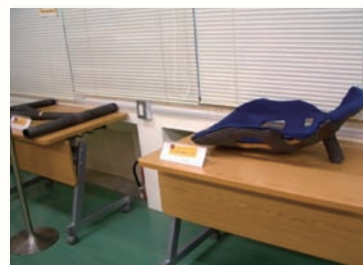
「都市・まちづくり研究会」は、地域イベント、町おこしなどの住民活動に参画している団体です。パネルや映像で、町民と共同で運営しているカフェ図書館「まゆたま」の活動の紹介などを行いました。



▶受付の様子



▶Windnauts/パネル展示



▶Windnauts 過去の機体の展示



▶Windnauts 優勝トロフィー



▶都市・まちづくり研究会パネル展示



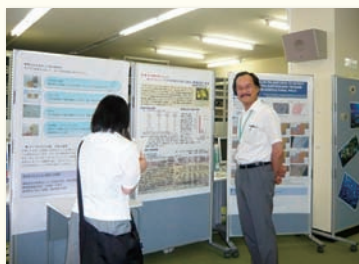
▶都市・まちづくり研究会がオススメの本を紹介

農学分館

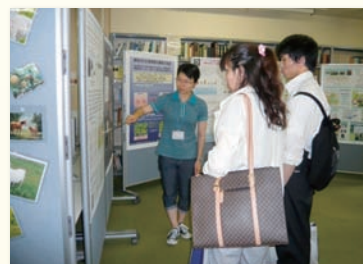
農学部のオープンキャンパスには2日間で1,900人を超える高校生達が訪れましたが、農学分館では約830人の来館者を迎え、震災後の農地や沿岸地域の復興を支援する「食・農・村の復興支援」と今年初参加の「東北マリンサイエンス拠点形成事業」の2つのプロジェクトの展示会と関連したクイズを出題し好評を博しました。



▶クイズ形式の問題を手に答を探して展示に見入る高校生達



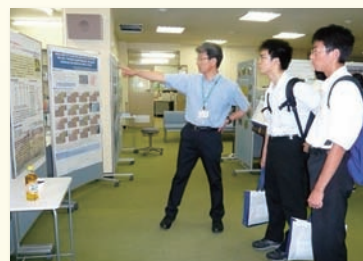
▶菜の花プロジェクトについて説明する西尾剛農学分館長



▶参加者からの質問を受けて震災後の男鹿半島沿岸地盤沈下による藻類への影響を説明する堀越彩香先生



▶復興支援のための園芸作物について説明する園芸学の金山喜則先生



▶震災後の農地の惨状や復興支援プロジェクトに菜の花が選ばれた理由を説明する栽培植物環境科学の伊藤豊彰先生菜種と菜種油も展示された

江戸の天文暦学展と記念講演会を開催

附属図書館本館では、江戸の天文暦学を資料でたどる展示会「『天地明察』の時代」を、平成25年7月2日から15日まで開催しました。江戸の天文暦学者・渋川春海の著作を中心として、約20点の天文暦学書・和算書を選んだ展示資料には、仙台藩ゆかりの著作も多く含まれ、この地が天文暦学の先進国であったことを伺い知ることができる内容でした。

また、7月14日に開催した記念講演会では、川和田晶子氏（広島大学）が「天文、和算と蘭学と：仙台藩天文暦学の世界」という講演を行いました。渋川春海の天文暦学を仙台藩が継承したこと、とりわけ仙台藩士・戸板保祐が編纂した『関算四伝書』と『天文四伝書』が当時の天文暦学の集大成であったこと、戸板は蘭学にも通じていたことなどの貴重な指摘があり、七夕の季節を前にして、充実した内容の学術講演会となりました。



関連資料の紹介

「関流和算書大成：関算四伝書」/ 東アジア数学史研究会編著 勉誠出版 2008-11

「関算四伝書」の現存する全507冊(宮城県図書館伊達文庫所蔵：宮城県指定文化財)の全丁をマイクロ・フィルム(モノクロ)として撮影し、これに基づいて影印を作成し、2008年・2011年にかけて、勉誠出版から出版された。(理学部理数学研究資料室、X-61～X-79 全11冊)

ワークショップ 「引用索引データベースの活用法と研究評価の最前線」を開催

附属図書館では、平成25年7月2日に金属材料研究所を会場として、「引用索引データベースの活用法と研究評価の最前線」と題するワークショップを開催しました。

これは、Web of Scienceなどの学術文献データベースの情報を活用して、機関評価や研究活動の広報に展開する取組みが近年活性化してきていることから、こうした動向に関する情報交換の機会が必要であると開催したものです。

ワークショップでは、東北大学原子分子材料科学高等研究機構(AIMR)の池田進准教授から同機構での事例紹介のほか、Web of Knowledgeのバージョンアップに伴う新機能と最新活用事例などの説明がありました。ワークショップには学外からの参加者もあり、東北地区での学術情報流通・研究評価活動の促進のため有用な場となりました。



▶ワークショップの風景



グローバル30 サマープログラムの参加者が見学に訪れました

平成25年7月9日(火)にグローバル30のサマープログラムの一環として、各国からの参加者約10名が図書館本館の見学に訪れました。留学生コンシェルジュにより英語での説明が行われ、閲覧室やパソコンコーナーなど実際に学生の皆さんが利用している場所を案内し、また、書庫内にある狩野文庫では江戸時代の貴重なコレクションの一部などを紹介しました。参加者は母国の図書館との相違を感じたり、日本語で書かれた資料に興味を示しており、積極的に質問もしていました。



▶書庫内の見学の様子

SERIES

「ゆかりの人々」～ 文学研究科美術史学講座 芳賀京子 准教授

シリーズ「ゆかりの人々」は、「東北大学ゆかりコレクション」にちなみ、本学の卒業生、教職員など、東北大学にゆかりのある方々とその著書について、ご本人に様々なエピソードを含めて、ご紹介いただくコーナーです。シリーズ6回目は、本学文学研究科の芳賀京子准教授です。今回は、芳賀准教授の著書の一部をピックアップしてご紹介いただきます。



美術史という分野に携わる以上、一般向けの活動もおそろかにしてはいけないと思ってはいたが、最近はむしろこうした仕事のおかげでバランスのとれたものの見方を忘れずにいられるような気がする。



『ロドス島の古代彫刻』 (中央公論美術出版、2006年)

2002年提出の博士論文をまとめたもの。ギリシャのロドス島は第一次世界大戦後イタリア領であったため、イタリア考古学研究所大学院専門課程の修了論文としてこの島のカミロス遺跡の研究を始めたのが1997年。そのまま深みにはまって、博士論文も同じ島を研究することになった。研究書なので読みやすくない。しかし《サモトラケのニケ》や《ラオコーン》もこの島の彫刻だと言えば、興味を持ってもらえるだろうか。東北大学への就職が決まり、地中海学会ヘレンド賞もいただいた思い出深い一冊。
(本館メインフロア東北大学ゆかりコレクション KB45/04)



『大英博物館 古代ギリシャ展：究極の身体、完全なる美』

(朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション、2011年)

展覧会の日本語版カタログの監修を担当。翻訳は研究室の大学院生たちががんばってもらった。しかし、日本で最初の巡回地である神戸展のオープニングの最中に震災が発生。しばらくして大学にカタログの山が届いた時には、正直言ってギリシャ美術なんてどうでもいいと思った。けれどその後もたくさんの人がギリシャ美術の話に熱心に聞き入ってくれた。日本でギリシャ・ローマを研究し、教えることの意味について考えさせられた。

(本館書庫 KC18/0188)



雑誌『Pen 1/1・15』

(阪急コミュニケーションズ、2012年12月)

創刊15周年の特大号に「ギリシャ・ローマ」の特集を組むということで、私が総監修を担当し、歴史などは同じ文学研究科のヨーロッパ史の助教や院生の方々に手伝ってもらった。タイトなスケジュール、細かい字数制限、そして何より「ギリシャ・ローマにまったく興味がない読者にも面白くわかりやすい特集をめざす」というコンセプトが私には初めての経験で、とても面白かった。

SERIES

〈つながり〉の一冊 『グロタンディーク — 数学を超えて』

超人のファンタジー

(理学部物理学科4年 今井 俊介)

シリーズ〈つながり〉の一冊は、学生の皆さんに、感銘を受けた本や、他の学生さんにお薦めしたい本、ご自身の研究上影響を受けた本などを紹介しながら、つながっていくリレーエッセイです。



『グロタンディーク — 数学を超えて』山下 純一著、日本評論社、2003.10刊(北青葉山分館1階図書 MA21/120)

誰でも1度は天才を目にしたことがあるのではないのでしょうか。テレビをつけるとイチローがいたりするし、チャンネルを変えると、きゃりーぱみゅぱみゅがCMに出ていたりします。あなたも心の中で想っている天才がいることと思います。今回紹介する本は、私が最高の天才と崇めている数学者、グロタンディークの伝記です。

この本では、「陽」(推進的、男性的、明晰)のイメージと「陰」(創造的、女性的、神秘)のイメージについて書かれています。数学と聞くと、証明の明晰さや、やっている人間の比率からどうしても男性をイメージしてしまいます(私は数学科の女っ気のなさに嫌気が差しますが、他の人はどうなのでしょう)。しかし、この筆者は、グロタンディークは「陰」的な性格も持っていたということを主張しています(グロタンディークはフィールズ賞も受賞したほどの数学者です)。私は己の直観に頼ってここまで生きてき、(何も考えずに東北大学に、理学部に、物理学科に来てしまった)論理的思考力、明晰性などが欠如したまま、院は数学科に行こうとしているのですが、偉大な数学者であり、直観や夢的なものを重視したグロタンディークにはとにかく憧れてしまいます。

グロタンディークの両親は、父がアナーキスト、母がジャーナリストと、両親は文系の人っぽいです(文系脳の私にもチャンスはある?)。グロタンディーク自身も16歳の時に「ヘロンの公式」を拡張した「3次元のヘロンの公式」を導くまでは特に数学に何かを感じたりはしなかったようです。また、グロタンディークは40代で数学

の第一線から退いて環境、政治運動をするなど、数学者のなかでも異質な人でした。

このようにグロタンディークは不思議な人なので、数学と普段接しない人も彼について知ってほしいです。

Information

学生選書企画『Student Book Harvest 2013』を実施します！

あなたの選んだ本を図書館の蔵書に加えませんか？毎年恒例の学生選書企画『Student Book Harvest』を実施します。昨年もたくさんの学生が参加し、500冊以上の本を図書館の蔵書に加えることができました。選書企画への参加方法は、個人参加の「本屋へGo！ひとりでじっくり♪～」とグループ参加の「テーマでGo！仲間と一緒に♪～」の2つ。選んでいただいた本は、館内に展示予定です。さて、今年はどんな本が加わるでしょうか。

参加方法についてはこちら。

■募集期間：10/1(火)～12/13(金)

(参加された方には、附属図書館オリジナルグッズを進呈)

■「本屋へGo！ひとりでじっくり♪～」

- ・ **応募方法**：附属図書館にある参加申込書を2号館1階カウンターへお持ちいただくか、e-mailで附属図書館受入係(acq@library.tohoku.ac.jp)宛にお申し込み下さい。
- ・ **選書金額**：1個人当たり5万円程度まで(冊数制限なし)
- ・ **選書場所**：ジュンク堂書店仙台店(イービーンズ内)、紀伊國屋書店仙台店(ザ・モール仙台長町店)

図書館が指定する日時から参加日時を選択して下さい。

※お申し込みいただいた方には、後日詳細をご連絡します。なお、定員になり次第締め切りとなりますので、お早めにお申し込み下さい。

■「テーマでGo！仲間と一緒に♪～」

- ・ **応募条件**：川内キャンパスに所在する研究室またはゼミ(専攻分野に関する本の選定)
東北大学学生会所属団体及び準加盟団体(所属サークル活動に関する本の選定)
- ・ **応募方法**：所定の応募用紙と図書選定リストに必要事項を記入し附属図書館メインカウンターまでお持ちください。
応募用紙・図書選定リストは附属図書館HP(<http://tul.library.tohoku.ac.jp/>)からダウンロードするか、附属図書館備え付けのものをご使用ください。
- ・ **応募要領**：応募用紙に必要事項を記入し、図書選定リストを添付してください。
新刊図書を中心に、学習用、教養図書を20冊程度、10万円以下で選定してください。
できるだけ附属図書館に所蔵のないものを選んでください。

※応募枠に達した時点で締め切りとなります。こちらもお早めにご応募ください。

皆様のご応募、お待ちしております。



▶展示コーナー



全学教育科目『「レポート力」アップのための情報探索入門』開講 (2セメ・木曜日・5時限目・川内北講義棟A106教室/マルチメディア教育研究棟M104)

今年度も、10月3日(木)から全学教育科目「『レポート力』アップのための情報探索入門」を開講します。この科目では、講義と実習を通じて、レポートの作成法とそれに欠かせない文献・情報調査法の基礎を学びます。また、授業時間外にも、図書館内に設置予定のTAが担当するサポートデスクで、レポート作成や文献調査について相談する事ができます。

皆さんもぜひこの授業で「レポート力」アップを目指してください。



受講した
先輩の声

- レポート作成の手順がよくわかりました。初めてきちんと書籍を探したり、調べたりしてレポートを書いたので、とても有意義な授業だったと思います。
- レポートの書き方というものをまったく知らなかったのも、非常に役に立った。これを受けることによって今後のレポートがすいぶん違ってくと感じた。
- 図書館で行われたレポート作成の講座はとても充実していて良かったです。いただいた資料はこれからもレポートをつくる際に参考にさせていただきたいと思います。



▶昨年度の授業風景
～本館メインフロア
フレキシブルワークエリア

Editor's notes

「KIBOKO初秋号」は、いかがでしたか？この号を編集していた頃は、連日のニュースで熱中症が話題となっていた時期でした。2号館2階に設置された臨時学生閲覧室も、その暑い最中に、学生の皆さんが一生懸命重い図書を運び、整備してくださった苦労の賜です。作業に参加された皆さん本当にありがとうございました。

今年は、地下書庫と館内改修工事が一度に行われるため、大変ご不便をおかけしておりますが、学生の皆さんが力を合わせて作った閲覧室を、数ヶ月間大いに活用いただき、利用者の皆さんの学習や研究活動にお役立てください。

そして、来春、晴れてリニューアルした図書館を、スタッフ一同、さらにパワーアップさせていきたいと思っています。それまで、楽しみにお待ちください。次号は、12月の発行となります。

(木這子編集委員 村上 康子)